

# LISA ONO

## Special Acoustic Live 2022

心地よいリズムに乗せて  
ヴォーカルとギター、チェロ、ピアノが創り出す美しい音楽空間。

### 小野リサ (ギター、ボーカル) Lisa Ono

1962年ブラジル・サンパウロ生まれ。10歳までブラジルで過ごし、15歳からギターを弾きながら歌い始める。1989年、アルバム『カトピリ』でデビュー。“ボサノバの神様”アントニオ・カルロス・ジョビンや、“ジャズ・サンバの巨匠”ジョアン・ドナートとの共演、ニューヨークやブラジル、アジア各国での公演も積極的に行っている。1999年アルバム「ドリーム」が20万枚を越えるヒットを記録するなど、これまでに日本ゴールドディスク大賞「ジャズ部門」を4度受賞。2013年にはブラジル政府よりリオ・ブランコ国家勲章を授与されるなど、日本におけるボサノバの第一人者としてその地位を不動のものとしている。2018年、デビュー30周年を記念し、J-POPカバーアルバム第4弾『旅そして ふるさと』を3月にリリース。

2018年5月には初のオーストラリアツアー、10月から11月にかけては初の北米(アメリカ・カナダ)ツアーを開催し、世界的に活躍。2019年1月DJ TAROが手掛けるノンストップ・カフェ・ミックスアルバム「ISLAND CAFE feat. Lisa Ono II」[LISA CAFE II~Japão especial]の2タイトル同時発売。2019年9月にはオセアニアツアーを開催。初のニュージーランドでのコンサートと、オーストラリア(アデレード、ブリスベン、メルボルン、シドニーオペラハウスなど)全5公演のコンサートを行った。

2019年12月4日、新しいアルバム「愛から愛へ〜愛の賛歌」をリリース。宇崎竜堂&阿木耀子のゴールデンコンビによる新曲「まだ恋が足りない」の他、「愛の賛歌」などを収録。このアルバムを引っさげてのコンサートツアー「小野リサ コンサート2020 Love Joy and Bossa Nova」が2020年2月21日(金) Bunkamuraオーチャードホールからスタートした。2020年6月〜『小野リサLISAONO公式YouTubeチャンネル』を開設し、毎週リモートで収録したミニライブを配信。2021年からは毎月、ミニライブを配信している。2021年3月NHK東日本大震災復興支援ソング『花は咲く』をポルトガル語で歌唱し、NHK国際放送で放送され話題に。2021年1月23日Bunkamuraオーチャードホールで開催された『小野リサ コンサート2021~New Year Journey~』で初披露した。

小野リサ オフィシャルサイト <https://onolisa.com/>



### フェビアン・レザ・パネ (ピアノ)

Febian Reza Pane

1986~7年にかけて「海辺のサティ」他8枚のアルバム(ネオ・シック・シリーズ)およびソロ・ピアノによるクリスマス・ソング集をリリース、ピアニスト・編曲家として注目を集める。その後大貫妙子、小野リサ、川井郁子など多くのアーティストのコンサート、レコーディングに参加、繊細かつ研ぎ澄まされた独特のピアノ・タッチと音色には定評がある。2003年に自己のレーベル「Amphibian」を立ち上げ、ソロ・ピアノによるアルバムを中心にリリース。

また、川井郁子 at カーネギーホール2008、小野リサ・アジアツアー等、海外での演奏もたびたび行っている



### 伊藤ハルトシ (チェロ) Harutoshi Ito

1984年12月7日、東京生まれ。3歳からチェロ、14歳からギターを始め、(ギターは津本幸司氏、梶原順氏、道下和彦氏に師事、チェロは水島たかを氏、安田謙一郎氏、佐藤明氏に師事)18歳よりプロ活動を始める。

洗足学園音楽大学ジャズギター科で学ぶ。在学中はJazz、R&B、Soul、Funk、countryに傾倒し、自身がボーカルを務めていたRock&SoulバンドやLA系フュージョンインストバンドの活動に明け暮れる。一方、チェリストとしてはクラシック、タンゴ、ヒーリングミュージックに傾倒し、クラシックグループで精力的にリサイタルを行う。現在は、主にRock、Blues、Jazz、R&B、worldmusic、クラシック、などをルーツとし、チェロとギター(アコースティック〜エレキ)でポップスサポートやインスト、様々な分野で活動中。



© Masafumi Hosoo